

学校だより

あさなさとのかぜ

発行者：岩倉市立曾野小学校 校長 松岡由里子 平成21年12月22日 No. 2

2学期を振り返って

今学期は新型インフルエンザが猛威をふるい、学級閉鎖、学年閉鎖が相次ぎました。そして、その影響で行事の中止や延期を余儀なくされ、保護者の皆様にも大変ご迷惑をおかけしました。本校ではだいぶ治まってきましたが、今後は従来型のインフルエンザの流行も懸念され、気を抜くことはできません。子どもたちには、予防に向けて、これまで同様うがいや手洗いを励行するとともに、病気に負けない体力をつけてほしいと思っています。



そんな中での2学期でしたが、子どもたちは様々な場面でよく頑張りました。行事ばかりでなく学習面での活躍にも特筆すべきものがあります。11月20日(金)、愛知県内外から多くの教育関係者が本校の授業の様子を参観にみえました。300人を超える方々が見守る中、子どもたちはそれに動じることなく授業に集中し、積極的に自身の考えを述べる姿があちこちの教室で見られました。子どもたちの学ぶ姿勢は多くの参観者に評価され、本校の職員もさらに授業方法の工夫改善に取り組む意欲をかき立てられました。

さて、これから冬休みに入ります。期間は短いですが、子どもたちそれぞれがこの1年を振り返り、新しい年への意欲を高めてくれることを期待しています。

勝利には、ただ一つ

「勝ちたい」という気持ちだけ

～ 運動会 ～

全校児童が5色に分かれて行われる運動会。自分の「色」の勝利を目指して子どもたちは力の限り頑張ります。応援の声にも力が入り、各色の旗がフィールドの外で大きく振られます。ところで、運動会の楽しみは競技だけでなく、高学年の行う演技にもあります。今年は5年生



がフラッグを使ったマスゲーム、6年生は組体操に挑みました。9月にシルバーウィークがあったため練習時間が十分に確保できず不安がありました。しかし、その分を集中力でカバーし、両学年とも当日は見事な演技を披露してくれました。毎年、高学年の演技は低学年・中学年の子どもたちに刺激を与えています。「自分たちも高学年になったらあんな演技が・・・」ときっと思うことでしょう。伝統の重みはこんなところにあると考えます。



感動の涙を ～ 学芸会 ～

11月7日(土)に開催された学芸会。インフルエンザの流行により児童鑑賞会が中止になり、まさに「ぶっつけ本番」という状況でした。不安は職員も子どもたちも同様でしたが、当日はどの学年も練習以上の力を発揮することができました。子どもたちの力は本当にすごいものです。中でも圧巻だったのは、小学校生活最後の学芸会と意気込んでいた6年生。練習では様々な紆余曲折があったようですが、本番では彼らの思いが観る者の心情を揺さぶりました。演技も最後の合唱も見事で、感動の余韻が残りました。この日、朝からの子どもたちの熱気で晩秋の体育館には暖かな空気が流れていました。



ここちよいコミュニケーションがとれていますか？

～ 第2回 学校保健委員会(3・4年生) ～

つつい発してしまうとげとげしい言葉。それが子どもたちの関係を歪めていることがあります。そこで今回、「ここちよい生活の基本はここちよい日常の対話から」ということで、親業インストラクターの原田洋子先生を招きお話を聞きました。やわらかな言葉のキャッチボールをいくつか実演していただき、子どもたちは自らを振り返ることができたようです。思いやりのある態度で互いに接することができれば、ますます素敵な曾野小の子どもたちで学校は活気にあふれることでしょう。

